

第 4 回太子町総合計画審議会議事録

日時：平成 27 年 6 月 11 日（木） 午後 2 時～4 時 10 分

場所：庁舎 4 階 全員協議会室

○委員

委員名簿は別途参照。

（オブザーバー）

大西 のぶえ 大阪府政策企画部企画室計画課参事

欠席者

小崎 清文

小野 達也

事務局

太子町 総務室

松村室長、総務政策グループ 横田グループ長、子安主幹、筒井主任

コンサルタント

株式会社かんこう 鎌木、松本

■資料

- ・ 次第
- ・ 審議会委員名簿
- ・ 資料 1 第 5 次太子町総合計画策定に向けた住民ワークショップ報告書
- ・ 資料 2 第 5 次太子町総合計画基本構想（素案）
- ・ 資料 3 第 3 回太子町総合計画審議会議事録
- ・ 策定スケジュール（案）

■次第

- ・ 開会
- ・ 議事
 - （1） 住民ワークショップの報告について
 - （2） 第 5 次太子町総合計画基本構想（素案）について
 - （3） その他
- ・ 閉会

【議事要約】

■開会

- 新任委員・オブザーバー紹介（筒井 真澄委員、大西のぶえオブザーバー）
- 資料確認

■（１）住民ワークショップの報告について

- 事務局より資料１の説明

- ・吉川会長：ワークショップについては吉兼委員にご苦勞をおかけした。何かあれば。
- ・吉兼委員：１回目だけでなく、２回目からも非常にたくさんの意見が出た。友達を連れてきてくれるなど人数も増えた。中学生がいたらという意見を行政が反映し、３回目には中学生のワークショップも行えた。女性陣から「入ろう課」をつくろうという提案が出るなど、行政に物を申すのではなく、自分たちが実現したいという方向に進んでいった点も良かった。清掃活動をしようという話が中学生から出たのも、ワークショップの効果だと思う。

残念なのは、アンケートの前にワークショップをやれなかったことで、アンケートの前にやれば、もっと効果的だったと思う。５年、１０年に１回だけでは、アリバイづくりになってしまう。住民がいつも意見を言える場が町内にあれば素晴らしいという印象を持った。

３回とも活発で、途中で黙ってしまう人がなく、最後までがんばっていただいた。もちろんファシリテータに上手に発言を誘導してもらったところがあったかもしれないが、基本的には住民の方々が熱心に話をされた。

こういうことをやったということは、逆に、自分たちの提案が実現するのかどうかについて、厳しいまなざしを持たれるということでもある。

- ・吉川会長：様々な情報が寄せられ、参考にさせていただけると思う。
第２回からのテーマは先生からの提案なのか、参加者から出されたのか。
- ・吉兼委員：必ず前回の意見を引き継ぎ、シェアし、その中から多数決等で決めるようにした。私はテーブルにも座らず、誘導はしていない。
- ・吉川会長：まさにアンケートの前にやれていれば、アンケートに反映できたかもしれない。その他、感想等あれば。
- ・西田委員：P13で７つのテーマが選ばれ、P20では当初の選定テーマにはない「土地利用について」が追加されている。土地利用は基本構想では大切な位置付けであると思うが、話し合いたいとは思われず、テーマから外れてしまったのか。
- ・事務局：第２班の話し合いで、いったんはテーマから外れたが、重要なので話し合いたいという参加者からの希望があり、テーマに含めた。
- ・西田委員：「地域活動の向上について」は第４班での議論を予定していたが、議論が白熱したため「子育ての支援制度や施設について」のみとなった、とP20にある。テーマを減らすこともあったのか。
- ・事務局：限られた時間で行ったため、子育ての話の方になった。時間がなかった。

- ・西田委員：中身として、反映できる話はあったのか。
- ・事務局：反映できる話は、総合計画に反映していきたいと考えている。
- ・西田委員：私もワークショップに参加したが、中学生も物怖じせずに活発だった。みんながしゃべっており、きっちりまとまっていた。来た人の意識が高かったのか、まとめ方が良かったのか、何が良かったのか。今後もこういうことができれば良いと思う。
- ・吉兼会長：ファシリテータの役割は大事である。皆さんの発言に対し、素晴らしい意見だと言えば、もっと意見が出てくる。自分たちの意見が反映されれば、実現したいという方向になる。ただし、ファシリテータが答えを言ってしまっただめである。他人の意見を批判してはいけないというワークショップのルールもある。これに基づいて、ファシリテータが上手に誘導してくれたと思う。台本がなく、出てきたものから新しいストーリーが生まれる仕掛けがあったのかと思う。個人の意見をしゃべりたいと思って来た人がいても、他の方も意見を言う。1人が滔々としゃべるということがなかったのが素晴らしかった。
- ・吉川会長：この資料を活かしながら考えていただければと思う。

■（２）第５次太子町総合計画基本構想（素案）について

○事務局より資料２（第２章２節まで）の説明

（本日の配布資料は、事前配布資料の誤字脱字を修正、説明を追加した部分もある。前回の方針を変えてはいない。）

- ・吉川会長：ここまでで、ご意見があればお願いします。
- ・吉兼委員：ワークショップで出てきた「暮らしやすい」「育てやすい」ということは十分書かれている。もう一つ、持続可能になるために、例えば起業したい方にどう支援するか、農業をどう活気づけるかなど、「働きやすい」というところにも力点をおき、暮らしやすく、働きやすいという感じにならないか。
「和のまち」については少し気になるが、太子町の方にとってしっくりする言葉であれば、これで良いと思う。
- ・吉川会長：「働きやすい」とか「起業」などについては、入れていただくことになると思う。
- ・事務局：土地利用の中に企業誘致の話が出てくる。今のご意見は反映できればと思う。
- ・吉川会長：前回と同様に「和」を入れていきたいということだが、もう少し具体的に説明をお願いします。
- ・事務局：太子町は聖徳太子のまちであり、「和」のキーワードは第４次総計から引き継いで、第５次総計でも続けていきたい。ワークショップのご意見にもあった行政は行政ができるところを進め、住民も主体的に進める、いわゆる協働について、第５次ではさらに前進させたい。そのためにも「和」から進めて行きたい。次回に示す基本計画でも具体的な施策を示していく。
- ・吉川会長：「和」があってこそ協働だと思う。地域コミュニティの活性化のためにも「和」が重要である。

- ・田中祐二委員：「和」の精神を謳うことには賛成である。「こころ健やか」にとあるが、「こころ清く」、人とあらがう姿勢でなく静かに過ごしていきたいと思う。日々の生活に感謝して暮らすことが、大切だと思う。そこをより具体的に入れていただきたい。起業や職をつくる面については、人口1万4千人の町では難しいのではないかと。支援は必要だが、企業を育てることを目指すより、今住んでいる人の充実した生活に主眼を置くべきだと思う。
- ・吉川会長：P8に年間製造品出荷額が58億とある。町内には、どのような工業があるのか。
- ・事務局：工業統計調査が出典である。
- ・吉川会長：町外も含むのか。
- ・事務局：事業所は町内である。製造品は外に出ていく方が多いと思う。
- ・小路委員：商工会は、会員数が140～150人だったのが100ほどになっている。買い物は外に出て行き、町内では商売ができない。その辺を考えてほしい。
また、太子町は、外からみたら魅力があるのか？
- ・吉川会長：自然が多く、歴史もあって良い場所ではないか。
- ・小路委員：魅力がないと思う。観光協会ができて観光ボランティアもがんばっている。観光資源もあるが、観光客が来ても、トイレがない、食べる場所がないと言われる。そこにお金を使ってお客さんを呼び込まないとこの町は良くなる。
- ・村井委員：全国の議員が集まるところに行くと、タコチョウ、フトコチョウなどと言われ、まず半数には「たいしちょう」と読んでもらえない。いるかの太地とも間違えられたことがある。大阪のどのあたりか場所も知られていない。聖徳太子ともリンクしない。そういった現実を踏まえたうえで、まずは知ってもらうことが必要である。
- ・吉川会長：兵庫県の太子町と三つ連携していたと思うが。
- ・小路委員：いまも連携しているが、イベントの時ぐらいしか行き来がない。
- ・羽山委員：観光の話が出ているが、魅力があっても、魅力を活かす施設が少ないことが課題である。要するに食事、宿泊など観光客がお金を落とせる場所が必要である。また、道に看板を立ててくれたが、英語で案内を書くなど考えてもらったら良かった。大阪に来る外国人観光客をどのようにして太子町に呼ぶのか。
農業やグリーンツーリズムについても、もっと研究していくべきである。
- ・西谷委員：道の駅と役場はどういう関係か。駅長さんは今も役場の人か。
- ・事務局：道の駅は複合施設であり、町及び大阪府所管の部分がある。経営は民間の方にやっていた。
- ・西谷委員：運営協議会があり、特産品の販売と観光のPRを行っている。特産品の販売は会員が行っているが、観光のPRに関しては、太子十景の電光掲示板の電気が10年間、消えたままである。もう少し役場も道の駅に関与してもらわなければ。
- ・小路委員：事務局は役場ではないのか。
- ・西谷委員：事務局は役場だが、イベントや観光PRに関しては運営協議会に丸投げで、道の駅は閑古鳥が鳴いている。朝市も午前だけで終わってドアを閉めてしまう。もう少し行政が関与して指導してほしい。大和から大阪に入ってくる良い場所なので、ここでPRに努めてもらえればと思う。

- ・吉川会長：施設がないと留まってくれない。その辺の内容を含めて検討してほしい。
- ・西田委員：P23が一番重要である。「人と自然と歴史が交流し 未来へつなぐ 和のまち たいし」の標題だが、なぜ太子をひらがなにしたのか。聖徳太子の太子なので漢字を思い浮かべる。P24の図も、人、自然、歴史を表しておらず、わかりにくい。少なくともひらがなの「たいし」はないと思う。
- ・事務局：読みやすいようにひらがなにしたのだが、ご議論いただきたい。
- ・吉川会長：どう思うか。
- ・村井委員：全国に発信する意味でも、聖徳太子の太子にこだわって、漢字にすべきかと思う。
- ・羽山委員：百舌鳥古墳群は世界遺産に指定されるのか。まだなのか。
- ・事務局：堺市と羽曳野市が進めている。
- ・村井委員：百舌鳥古墳群の話はテレビ等にも時々出ている。隣の太子町がなぜ、リンクする施策をつくらないのか。それで全国に発信していけると思うが。
- ・事務局：百舌鳥古墳群については、堺市と羽曳野市が進めており、進捗状況については詳しく把握していない。今の意見を受け止め、総合計画に書くかどうかは別として、考えていきたい。
- ・事務局：十分意識している。古墳群が有名になれば、竹内街道もオプションルートとして認められるということもある。堺、羽曳野と連携しながら進めていきたい。
- ・吉川会長：努力してもらいたい。「太子」の文字についてはどうか。
- ・田中一勲委員：「未来につなぐ和のまち」とのつながりでやさしくひらがなにしたのではないか。聖徳太子をPRすることのだが、肝心の叡福寺と太子町がうまくいっていない。また、町会に入る人の減少を何とかしなければいけない。そこを何とかしなければ、コミュニティや「和のまち」なども言いにくい。計画なので仕方がないが、現実性が薄いのではないかと考えている。
- ・西谷委員：畑地区の現状を聞いてもらいたい。交通の便が悪く、結婚したら大阪などに出ていくため、畑地区には大学生以下の子どもが1人もいない。バスの乗り場まで徒歩で30分、唯一の交通手段は車である。山田小学校まで子どもの足で40分かかる。自分の子ども世帯に太子町に帰ってくるように言ったが、太子町に帰っても子ども（孫）の話し相手、遊び相手がいないので帰れない、というのが現状である。子どもたちに帰ってきてもらうのには、スクールバスの運用、子どもの遊び場所の整備などが必要である。40代、50代ばかりであり、今から手を打っておかないと、おじいさん、おばあさんばかりになってしまうと心配である。人口は減り、高齢になると、町会を脱退していく。現在の町会加入数は47世帯である。
- ・吉川会長：太子町だけでなく、ニュータウンを含めた多くの地域でそのようになっている。
- ・村井委員：山田地区の特にだんじりのあるところでは、子どもが増えている。青年団活動をしてそのまま結婚して地元に着したり、レディースという青年団の女性部があり、結婚して外に出ても、子どもをだんじりに出たくて、地元の家を建てて戻ってくる女性も増えている。具体的なデータはとれていないが、まちづくりのヒントにな

るのではないか。

- ・吉川会長：私のところにもだんじりがあるが、近所の和泉ニュータウンからやって来る。

○事務局より資料2（第2章3節）の説明

- ・吉川会長：数値については、いかがか。
- ・阪本委員：高齢者保健福祉計画では、2025年（平成37年）の人口が13,321人と出ている。これとの整合はとれているのか。
- ・事務局：総合計画については社人研の数字を採用している。平成22年人口を基準にした平成27年の本町の推計人口が現実と合致しているため、これを採用した。高齢者保健福祉計画については、住民基本台帳人口の推移を基にした推計だと思う。
- ・横山委員：もしも人口が12,000人くらいに減ったら破綻することがあるのか。
- ・事務局：破綻することはないが、基礎自治体では、人口が減ると活力がなくなるので、人口を維持したいと考え、13,500人と設定したい。
- ・横山委員：どちらかというとう人口が減らないように予想しているが、予想が間違っただけで、減った場合と減らなかった場合では、どちらの被害が大きいのか。教授にお聞きしたい。
- ・吉兼委員：総合計画では、昔は夢を描いたが、今はそうはいかない。ここでは実行可能なぎりぎりのところで書いている感じである。そうしないとそのためにも努力する計画がつかれない。社会情勢が極端に変わりつつあり、この数字でいけるのか保証はできないが、一応妥当な線のぎりぎりの数字かと思う。
- ・横山委員：日本の下水道施設は、人口が減らない前提でつくってきた。人口が減れば、料金を上げなければならない。小さい数字にした方が被害は少ないのではないか。
- ・武矢副会長：バブル期に右肩上がりの前提で過剰投資して、結果、財政的に破たんした例もある。吉兼委員がおっしゃったように、もう右肩上がりの計画はつかれない。ただ、人口が減っても、皆さんお住まいになっているので、現在のインフラは、ダウンサイジングはあっても、維持していかなければならない。横山委員の言われた上下にぶれた場合のリスクはあまりないのではないかと思う。
- ・横山委員：急降下した場合はコストが上がるのではないか。もう少し控えめにしておいた方がよいのではないか。
- ・武矢副会長：総合計画では、人口を維持していく絵を描くが、下位計画として、水道や下水道の計画を立てるときには、最大、最少のどこをとるかをそれぞれの計画で検討し、現実的な対応を考えていくと思う。
- ・横山委員：5年で見直しもある。今のことを記録に残しておけば、考慮できるので結構である。
- ・田中一勲委員：一時は、総合計画で平成12年に22,000人の人口を目指していた。現在の人口はそうっていないが、影響が出ているか。
- ・事務局：財政的には人口が伸びれば税収が増える。従来の総合計画では、開発を見込んで人口を設定していた。今回は大きな開発人口を見込めない中で、人口減少に歯止め

を掛けたいという形になっている。目標を示し、頑張っていく形で13,500人という数値にさせてほしい。

- ・横山委員：了解した。
- ・事務局：アンケートでは、人口が減ってもやむを得ないという意見も半分あったが、維持すべき、何らかの対策を打つべしという意見も半分あった。このことも踏まえ、人口設定を行った。
- ・田中祐二委員：人口の減る時代に太子町だけ増やすのは難しいと思う。減ることに対する施策、急激に減らないようにする施策の両方をして、その中で減った時のリスクについても考えていく必要がある。13,500人はぎりぎりのところだと考える。
- ・吉川会長：13,500人で進めていただきたらと思う。

○事務局より資料2（第2章4節）の説明

- ・吉川会長：土地利用の方針についてご意見を願います。
- ・田中祐二委員：「緑地環境ゾーン」には太子カントリーも含まれ、スポーツ公園もある。「心と体の健康増進の推進」等を含めても良いのではないかと。
- ・村井委員：「広域交流ゾーン」について、自動車交通による玄関口とあるが、自動車を運転する人口も減少すると思う。最近の若い子は自動車離れをしており、駅の近くなど交通インフラの発達したところに住む流れもある。南阪奈道路のことも考えなければならぬが、京奈和の全線開通の影響を踏まえて動かないといけない。山の中の開発については、よく考えて進めた方が良く思う。
- ・西田委員：P10に市街化区域の景観を守ることに書いてあるが、太子町の豊かな自然、緑を見るとほっとすることもあり、景観を守ることは全域に通ずることだと思う。個人の土地に何を建てようがいろいろ言えないが、大きな建物が建つと景観が変わってしまう。景観については、全域での配慮がほしい。
- ・横山委員：開発申請に対するランドスケープのチェックはどこがやっているのか。
- ・事務局：詳細の分野までは把握していないが、府民センター内にある南河内の6市町村の広域連携の事務所でチェックしている。
- ・横山委員：開発で景観が悪くなることについて、太子町の役所は声を出せず、他人任せにしているのか。西田委員の意見に対して、今後どうするのか。
- ・事務局：広域事務所には、太子町も入り、連携してやっている。総合計画には細かい部分は出てこないが、今後、都市計画マスタープランでしっかり整理していく。
- ・田中祐二委員：P23に戻るが、「人と自然と歴史が交流し 未来へつなぐ 和のまち たいし」については、今後10年間、あらゆるところに出てくるものなので、もう少し揉んだらどうか。「たいし」については、私はひらがなの方が時代に即している気がする。「人と自然と歴史が交流し」については、「人と自然・歴史が交流し」の方が良いかと思う。
- ・西田委員：基本目標の（4）では「豊かな自然・歴史」としている。

- ・事務局：事務局の思いについて補足する。キャッチフレーズについては審議会で決めていただければありがたい。
「人と自然と歴史が交流し」は、住民アンケート調査、職員アンケート調査、ワークショップで一番よく出てきた言葉が「人」であり、太子町のモットーである「自然」「歴史」を大切にしながら交流し、住民の手作りのまちづくりを進めるということである。「未来へつなぐ」は、子育て支援をしっかりとしていき、未来につなげていくということである。「和のまち」は聖徳太子の太子町だからこそ使える言葉である。語尾等々は審議してもらえればと思う。ひらがなの「たいし」については、この並びだとひらがなの方がやさしく感じるということで、大きな意味はない。
- ・西田委員：どうすれば定住人口が増え、保育園に子どもの声があふれるようになるのか、ワークショップでお母さん方の声は聞いた。小さなお子さんをみていただいている先生のご意見もお聞きしたい。
- ・松井委員：若い人が働けて、住んで良かったと言える定住環境を確立する施策がほしい。子育て云々もあるが、まず若い家族が定住して活気あふれる町にすれば、次の段階で子どもも増えてくると思う。
- ・阪本委員：防犯パトロールで町内を回っているが、用明さんの近くや中学校のグラウンドの下など新しく開発された住宅地には子どもが多い。
- ・田中美佐江委員：子どもは確かに減ってきているが、0歳児から子どもを預けて働くお母さんは増えている。遠くまで働きに行っている人が多いので、近くに働く場があれば良いと思う。働くことより子育てがしんどいのではないかと感じることも多い。大規模店舗が来るように聞いているが、中学生のワークショップで、小さな店を減らさず増やしてほしいとの意見が出ていた。大きな店ができれば、景観が損なわれ、車が増えて空気も悪くなる。それより、お年寄りが安心して暮らせるよう小さな店を減らさないでほしいと中学生が言ったことが印象に残っている。
- ・松井委員：ワークショップに参加した子育て中のお母さん方は幼稚園の保護者ばかりだったと思う。幼稚園の保護者と保育園の保護者はぜんぜん意見が違う。立場で意見が違うことも考えていただきたい。
- ・田中美佐江委員：ワークショップでは仕事に行かず、家で子育てしている方が多かった。働いているお母さんとは立場や考え方が違うので、その意見だけをここに載せて、取り上げるのはしんどいと思う。
- ・吉川会長：新任の筒井委員いかがか。
- ・筒井委員：私は大阪府の職員で懐風館高校にフルタイムで勤めている。保育園の保護者、山田小を経て、今は太子中のPTA副会長をやっている。幼稚園の保護者の方とは過ごし方が違うと、息子の友達のお母さんを通じて感じることはある。やわらぎ保育園ではお世話になり、良い経験をさせていただいたと思っている。
新しい住宅街の町会の状況がわからない。小中学生がおらず、地区委員に選ぶ人がいないという苦情が出ているが、町会の名前を消すわけにもいかないで統合している。また、畑地区では、同じ方がずっと地区委員をやっていて、次は小学校1年に入る人しかいない状況であり、山田小学校では東條と畑地区を統合している。中学校について

でも地区委員の再編を進めているが、地区委員が減ると役員も減ってしまう。
高石市から嫁入りしてきたのだが、太子町は子育てには良い環境だと思う。その長所を伸ばしていただきたい。

男の子は定着しにくく、女の子は割と戻ってくると聞いている。どうしたら男の子が戻ってきてくれるのかが課題だと思う。

母親としては、魅力的な教育を考えていってほしい。市立中学もあるが、高校教師の目で見ると、大学進学状況に差はなく、町立中学の方がプラスと判断し、自分の子どもは町立中学に通っている。太子町立中学は、他の市町村と比べ、良い意味で変わっており、安心して通わせることができる。

- ・吉川会長：「緑交流ゾーン」での商業施設の話聞くが、地区計画で、医療ゾーンなども別途づくり、小規模な医療施設が来やすいようにするのも良いと思う。
- ・大西オブザーバー：太子町の実情など貴重なご意見をお聞かせいただいた。

経済成長が続く社会であれば、バラ色の総計ができたと思うが、これからは、死亡者数が増え、数十年間、人口が減っていく。超高齢化少子化が避けられない。この状況の中では、これまでのような開発、開発ではなく、ストックの有効活用や適正配置等の観点で総計をつくり上げていかないといけない。非常に厳しい時期だと痛切に思っている。

人口減少は国家的な課題であり、都道府県、市町村ともに地方創生の総合戦略を作成中である。私ども大阪府も少し遅れているが、審議会を立ち上げ、有識者のご意見をいただきながら総合戦略を策定しようと思っている。その前提としての人口推計については悩んでいる。単純に推計すると2040年までに大阪府人口は750万人まで減少する見込みである。ただ持続可能な社会として、活力を維持していこうとすれば、人口の減少カーブを抑えていかないといけない。そのためにどういう施策を打っていくかを検討しているところである。

そういう意味でP27では、非常に堅い、社会潮流に沿った見込みを立てていただいていると思う。基本目標の柱立てのところも、若い人、子育て世代も含めて暮らしやすいまちづくり、高齢者も安心安全に暮らせるまちづくり、あわせて協働の視点など、計画策定にあたって必要な視点で進めていただいている、という感想である。

■（3）その他

- ・事務局：キャッチフレーズについては、本日のご意見を踏まえ、もう一度整理し、何点か案を提示したい。（大きくは変えず、文字の並びなどを変え、提示する。）
スケジュール案のとおり、9月の議会で基本構想を議決いただきたい。本日、若干宿題が残ったので、次回8月の審議会で議論いただき、同会議で答申いただきたい。
8月の審議会までにご意見あれば、直接事務局までお願いする。

以上

第5次太子町総合計画審議会委員名簿

(平成27年5月20日)

条例第3条第2項第1号（町議会議員）			
	羽山 茂男	はやま しげお	町議会議員
	西田 いく子	にしだ いくこ	町議会議員
	村井 浩二	むらい こうじ	町議会議員
	田中 祐二	たなか ゆうじ	町議会議員
条例第3条第2項第2号（住民）			
	田中 一勲	たなか かずのり	社会福祉協議会
	小路 義弘	しょうじ よしひろ	観光・まちづくり協会
	西谷 昌明	にしたに まさあき	区長会
	筒井 真澄	つつい ますみ	PTA連絡協議会
	田中 美佐江	たなか みさえ	やわらぎ幼稚園
	松井 加陽子	まつい かよこ	松の木保育園
	阪本 喜久夫	さかもと きくお	保健事業推進協議会
	小崎 清文	こざき きよふみ	公募
	横山 素夫	よこやま もとお	公募
条例第3条第2項第3号（学識経験を有する者）			
会長	吉川 寿一	よしかわ ひさかず	大阪城南女子短期大学教授
	吉兼 秀夫	よしかね ひでお	阪南大学教授
	小野 達也	おの たつや	大阪府立大学准教授
条例第3条第2項第4号（町及び関係行政機関の職員）			
副会長	武矢 幸信	たけや ゆきのぶ	副町長